

2026年03月17日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【リスクをコントロールする週】

今週は、主要各国の金融政策の発表がある。

まずは、鎗矢として、オーストラリアの金融政策が、本日(2026年3月17日)発表された。

本日のRBA(オーストラリア準備銀行、豪中央銀行)の理事会では、豪政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを、0.25%引き上げ、4.10%にする、と決定した。

インフレ抑制には、借入れコストの引き上げが必要として、2か月連続での利上げを決めた。

この利上げはマーケットの事前予想通りで、サプライズは無かった。

+++++

今日明日(2026年3月17日、18日)には、FOMC(米連邦公開市場委員会)が開催される。

このFOMCでは、現在の米国政策金利を据え置くことがほぼ確実視されている。

つまり、フェデラルファンド金利は、3.50%~3.75%に据え置かれる、と予想されている。

マーケット(外国為替市場)は、米国・イスラエルとイランの戦闘状態が、米国経済、物価に、どのような影響を与えるのか不確定である、と危惧している。

特に、直近の原油価格の急騰が、物価の上昇に寄与することを意識している。

トランプ大統領が、利下げをするように、何度も呼び掛けているのだが、上記の理由で、今日明日のFOMCでは、すぐには利下げに応じられない姿勢を貫くのではないかと予想される。

+++++

今週の明日明後日(3月18日、19日)には、日銀の金融政策決定会合が予定されている。

マーケット(外国為替市場)では、この金融政策決定会合で、政策金利が据え置かれると予

想する向きが大多数を占める。

日銀の金融政策の方向性は、円の政策金利引き上げであるが、先に述べた通りに、米国・イスラエルとイランの戦闘状態、及び、直近の原油価格の急騰を考慮すると、今すぐに利上げを実行できるのか、今すぐに利上げをするべきなのか、簡単には結論を出せない状況に置かれている、と考えます。

結果として、政策金利を据え置き、様子を見ることになる、と考えます。

+++++

今週の明日明後日（3月18日、19日）には、ECB理事会も予定されている。

このECB理事会でも、ユーロの政策金利が据え置かれると予想する向きが大勢を占めている。

+++++

そして、明後日（3月19日）には、BOE（英国中銀）の金融政策委員会が予定されている。

+++++

現在のマーケット（外国為替市場）では、米国・イスラエルとイランの戦闘状態が、今後どうなるのが、不透明なままでは、積極的に動けないというのが本音だろう。

さらに、今週には、高市総理大臣が米国を訪問する予定となっている。

トランプ大統領が、高市総理大臣に、何をどのように要求してくるのか、それもマーケット（外国為替市場）に重大な影響を与える可能性がある、と考えます。

リスクをコントロールして、慎重に対応すべき、と考えています。

+++++

+++++

（2026年3月17日東京時間14:00記述）